

第104回 全国書道コンクール出品要項

左記のとおり硬筆コンクール作品を募集します。奮ってご応募下さい。

一、中学生・小学生・幼年

●課題Ⅱ次ページ掲出課題

●用紙Ⅱ本会選定用紙

○幼・小一年……………四行用紙

○小二年以上……………五行用紙

●用具Ⅱ幼年から小三まではえんぴつ

小四以上は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

一、出品料（一点につき）

会友 六三〇円

中学～幼年 五三〇円

一、出品締切り

令和五年七月二十四日（月）必着のこと

一、送り先

509-5134 土岐市泉島田町一-三〇

大書心会全国書道コンクール係

一、審査

期日 七月二十八日（金）

午前九時半から

会場 セラトピア土岐

三階第一～二会議室

一、審査員

認定審査員・及び八十点以上出品の団体責任者に委嘱。

一、褒賞

大賞・準大賞・会友特選（以上会友作品を

対象とする）・会長賞※土岐市長賞※同教
育長賞※同市議会議長賞※中日新聞社賞・
大書心会賞・理事長賞・師範会賞・理事奨
励賞・特選・奨励賞・俊英賞・優秀・秀作・
入選・佳作

（※印は申請中）

○全員に賞状、賞品を授与します。

○成績優秀な団体には、団体賞を授与します。

一、団体出品

5点以上まとめて出品の場合は団体扱い
となります。特典もあり、その他出品目録
が必要となりますから大書心会事務局あ
てお申込み下さい。

▽支局・支部には、予め出品目録を郵送い
たしました。

一、成績発表

本誌十月号誌上。（各団体宛にも通知いた
します）

※作品展及び授賞式はございません。

一、会長賞受賞者の特典

●六段以下の受賞者は一階級昇格を認め
ます。

●現在小五年生以上で、幼年から通算して
三回受賞した場合は会友を認定します。

※いずれも八月から昇格します。

一、特別昇級の特典
硬筆部一級以下の出品者は、全員一階級特
進を認めます。（申請者のみ）

一、その他

○一人何点でも出品できますが、特別賞受
賞は一人一点とします。

○出品料は為替か小為替にして作品と同
封し書留で送るか、現金書留による送金
に限ります。（振替、その他は不可）

○作品は月例競書と同封してもよろしい
が必ず混同しないよう、明確に区別して
下さい。

〔注〕

※硬筆コンクール作品展及び授賞式は、昨年
に引き続き今年も休止いたします。

※この誌上コンクールには、どうぞ奮ってご
応募下さい。

▼原寸大手本（コピー）

一枚……………五〇円（送料実費）

▼選定用紙（四行・五行用紙とも）

一冊……………八〇円（送料実費）

※ご注文の節は、「四行」または「五行」
とはっきりご指定下さい。

第 104 回コンクール課題 (テーマ=植物)

幼 年 (えんぴつ)

み	ど	り	の
く	さ		
し	ろ	い	
は	な		

小 一 年 (えんぴつ)

あ	さ	が	お
ひ	ま	わ	り
き	れ	い	な
な	つ	の	花

小 二 年 (えんぴつ)

野	原	に	は
名	ま	え	も
花	が	い	っ
だ	け	ど	み
き	れ	い	だ

小 三 年 (えんぴつ)

ク	ラ	ス	み	ん	な	で
大	事	に	育	て	た	
赤	い	ば	ら	の	花	
色	あ	ざ	や	か	に	
光	つ	て	い	る		

小 四 年 (ペン)

緑	の	少	な	い	都	会	て	は
道	ば	た	に	も				
木	を	植	え	て				
明	る	い	町	づ	く	り	を	
進	め	て	い	ま	す			

小 五 年 (ペン)

寒	い	冬	の	日	で	も	
温	室	に	入	る	と		
暑	い	国	で	生	ま	れ	た
原	色	の	花	々	で		
目	も	覚	め	る	ば	か	り

小 六 年 (ペン)

眼	下	に	広	が	る			
ゆ	う	大	な	山	の	景	色	と
美	し	い	お	花	畑	は		
登	り	道	の	苦	し	さ	を	
忘	れ	さ	せ	て	く	れ	る	

中 一 年 楷書 (ペン)

高	山	植	物	は					
厳	し	い	気	候	に	耐	え	て	
養	分	の	少	な	い	岩	の	下	や
石	こ	ろ	の	間	で	育	ち		
夏	に	は	見	事	な	花	を	開	く

中 二・三 年 行書 (ペン)

寒	い	北	国	ほ	ど			
鮮	や	か	な	紅	葉	が		
見	ら	れ	る	の	は			
昼	と	夜	の	気	温	の	差	が
激	し	い	か	ら	で	す		

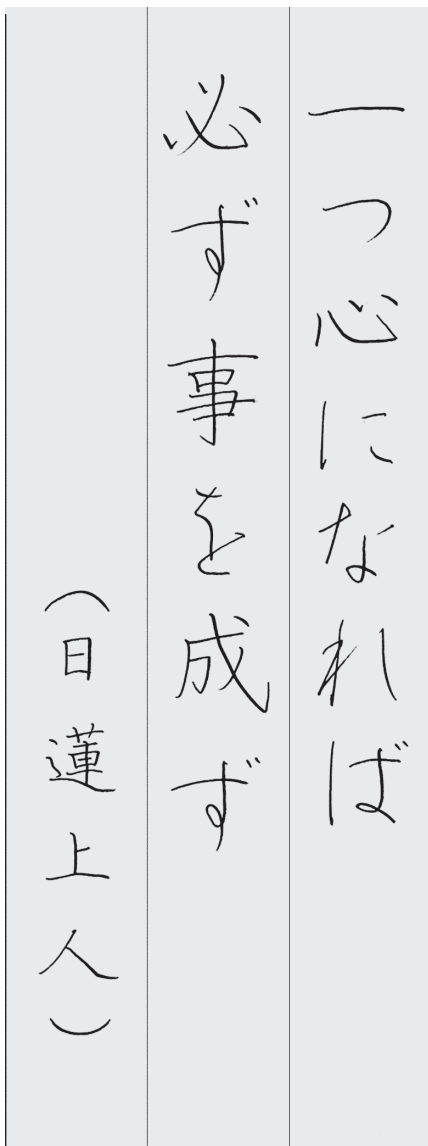
※「ペン」は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

※幼年から小三までは上一段めけて書いて下さい。句読点は省略します。

憲照先生の手本ア・ラ・カルト(31)
(à-la-carte)

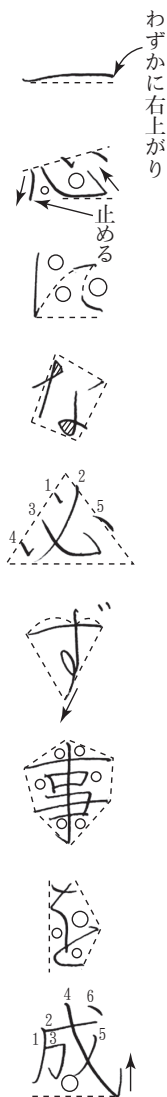
締切り 七月二十四日(必着)

昭和50年5月



つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎本会は、今年で創立六十八周年を迎えます。まだまだ世の中は、新型コロナウイルス禍の影響で、世界中が不安の中にいます。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年同様『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。

お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。同一課題を楷・行・草の順で繰り返し、掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★一つ：(書体Ⅱ楷書)

日蓮上人

鎌倉中期の僧

「百人千人なれども、一つ心なれば必ず事を成す」が全文。

一人の人であっても二つの心があれば、目的とする事の精神が定まらず、あれこれ乱れ、迷いを生じてしまい何事も成就しません。それに対し、たとえ百人・千人の心であっても、目的が一つに定まっていれば何事も成就するのである。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求するためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

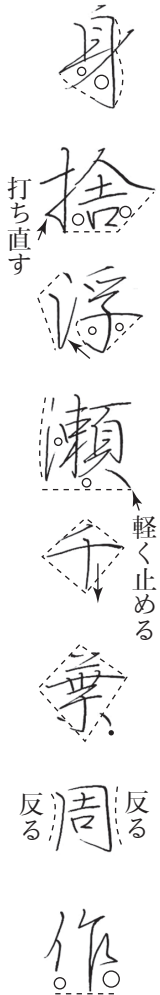
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願いします。

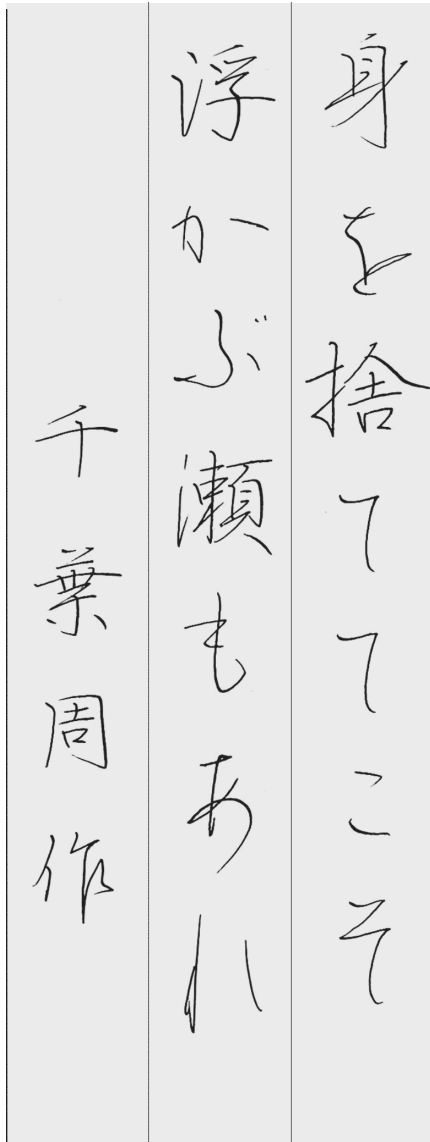
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

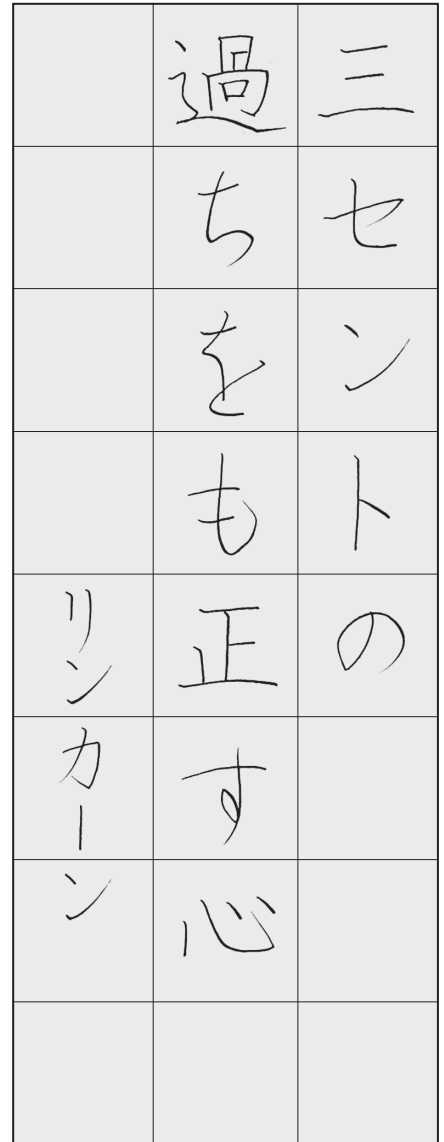
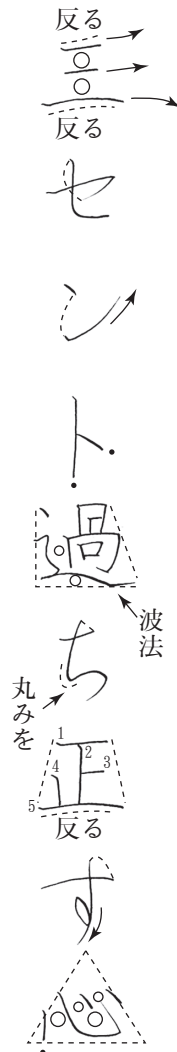


新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼▼教範・書範⇨楷書
▼師範⇨行書

◆8月課題予告(行草または草書)
青年が
世事を学ぶのは
同輩からである

★身を捨てて……(書体⇨行書)
千葉周作 北辰一刀流開祖
幕末の剣豪で名高い周作にある男が命がけの願いがあるとやって来た。聞けば浪人の辻斬に出会いどうしたら楽に斬られるか教えを受けに来たという。死を覚悟の男に驚いた周作は、浪人がかまえたら目を閉じてかまえる様教えた。男が浪人の所へ行き教え通りにすると、浪人は自分より男が強く見えたらしく逃げていった。周作はそれを聞くと、命を捨ててかかった男の剣が命を救い、これぞ身を捨ててこそ浮かぶ瀬あれだと男に言った。

◆8月課題予告(行書)
その人を
知らずんば
その友を見よ

★三セント……(書体⇨楷書)
エーブラハム・リンカーン
(一八〇九〜一八六五)
米合衆国十六代大統領
大政治家であった彼は若い頃ある商店で店員をしていました。閉店後売上げが三セント多くある事に気がつき、夜中払い過ぎた人の家を探しました。やっと探しあてた彼は不注意を深く詫び、三セントをさし出すとその人は「あなたはこれのたった三セントのために……この尊いお心もちをいつまでも失わず持ちつづけて下さい」と言いました。三セントは約五円。
この頃から培われてきた彼の正義感あふれる精神が後の奴隷解放へとつながったのでしよう。

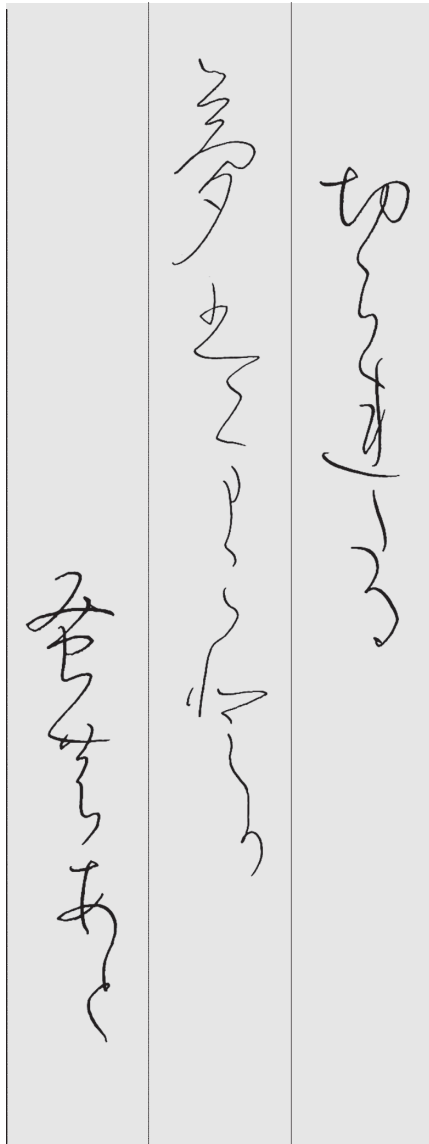
一般部かな課題

締切り 7月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

切られたる夢はまことか蚤のあと



切られたる夢はまことか蚤のあと

	切	
	ら	切
	れ	ら
	た	れ
	る	た
夢	は	ま
の	こ	と
か	蚤	
の	あ	
と	と	

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆8月課題予告

馬洗ふ川すそ聞き水鶏かな

(立花北枝)

【解説】へめくの二画目は縦目に書き、二画目は縦線に巻き付けるように書く
とよい。

連れ 遊ゆ 者は 盤は 農の

馬洗ふ川すそ聞き水鶏かな

〔古筆参考〕

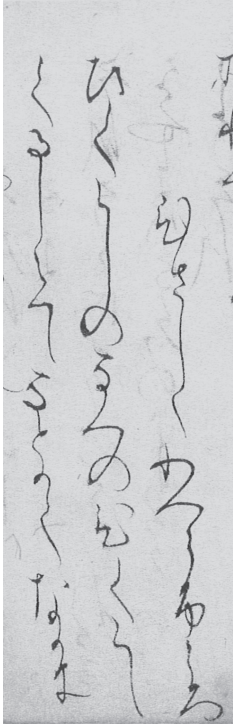
切られたる夢はまことか蚤のあと
(榎本其角)

【句解】ぱっきりと刀で切られたという夢は本当だったのだろうか。夢から覚めてみると蚤に食われたあとがある(それを夢では刀で切られたとみたの
だろう)。

【鑑賞】去来曰く「其角は誠に作者にてはべる。わづかに蚤の食ひつきたること、たれかかくはいひ尽くさん」。芭蕉曰く「彼は定家の郷なり。さしてもなきことをことごとしく言ひつらねはべるときこえし評に似たり」と伝
える。

〔古筆参考〕

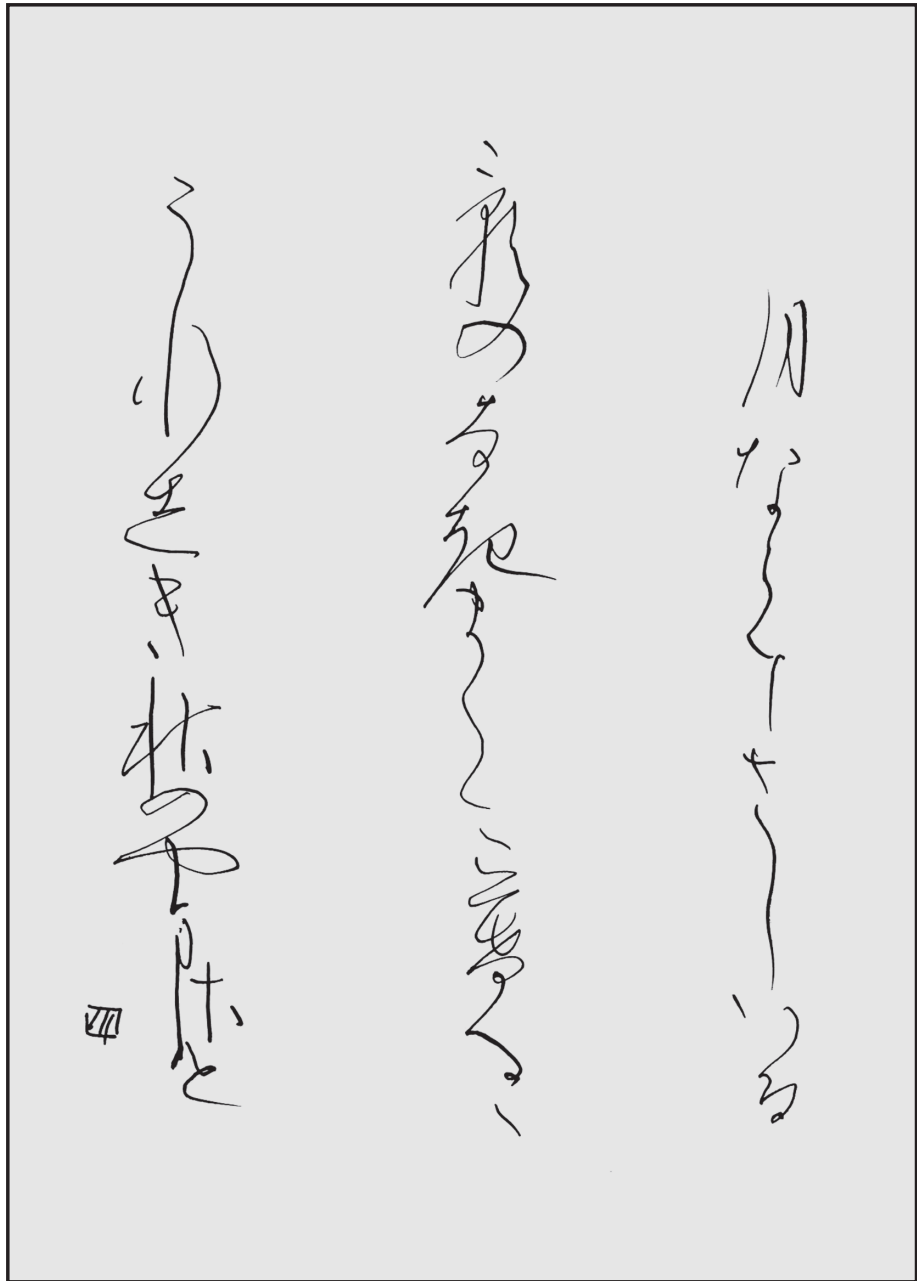
なかつかさしゅう
中務集



ひさしくわづらふころ
ひぐらしのなつのひぐらし
くるしくてなどかくながき

締切り 七月二十四日(必着)

築瀬舟香書

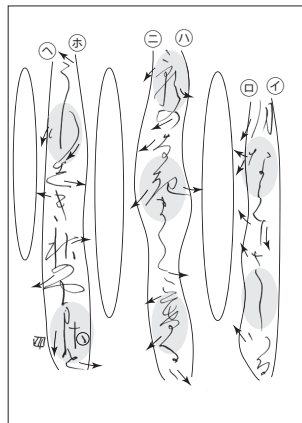


月ならでさしいる影なのなきままに二
暮るるうれしき秋の山里志
や方佐と

〔歌意〕月以外には秋の山里の庵を訪れるものもないので、月の光がさし入るだろうと、日の暮れるのが嬉しく思われるよ。

〔出典〕新潮日本古典集成

〔解説〕



- ①と②、①と③、④と⑤、④と⑥、④と⑦、④と⑧、④と⑨、④と⑩、それぞれ呼応。
 - 余白大切。
 - ↙ 線の方向
 - 密の動き
 - の場所
- それぞれ注意。

◆ 8月課題予告

花薄心あてにぞ分けてゆく
ほの見し道の跡しなれば

締切り 7月24日(必着)

連日の猛暑に食欲減退のこの頃、
体力の回復を図るべく、鰻を食べに
行こうかと思案中です。土用丑は
混雑が予想されるので、なるべく
早めに予約をしようと思います。
都合の良い日をお知らせ下さい。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

連日の猛暑に食欲減退のこの頃、
体力の回復を図るべく、鰻を食べに
行こうかと思案中です。土用丑は
混雑が予想されるので、なるべく
早めに予約をしようと思います。
都合の良い日をお知らせ下さい。

横 書 き 課 題

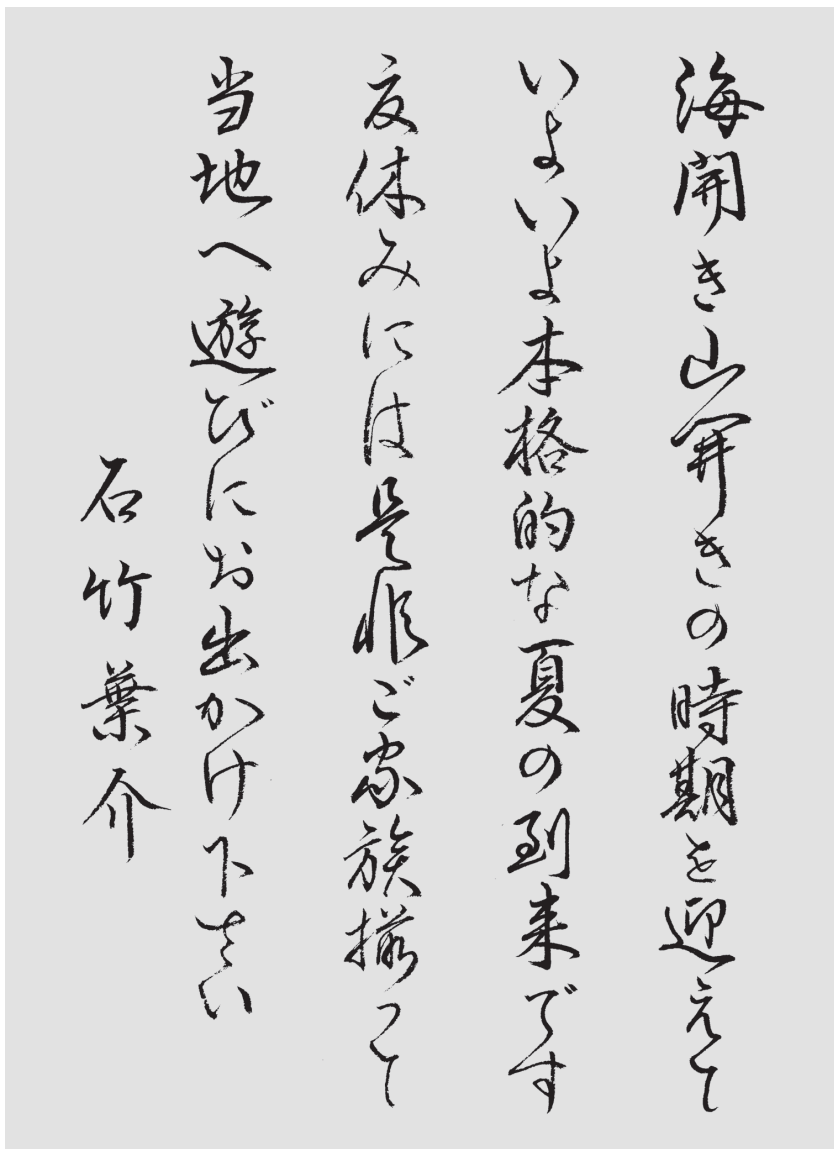
ドイツの作曲家バイエルは、ピアノ
の教則本にその名を残している。

福岡県朝倉市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

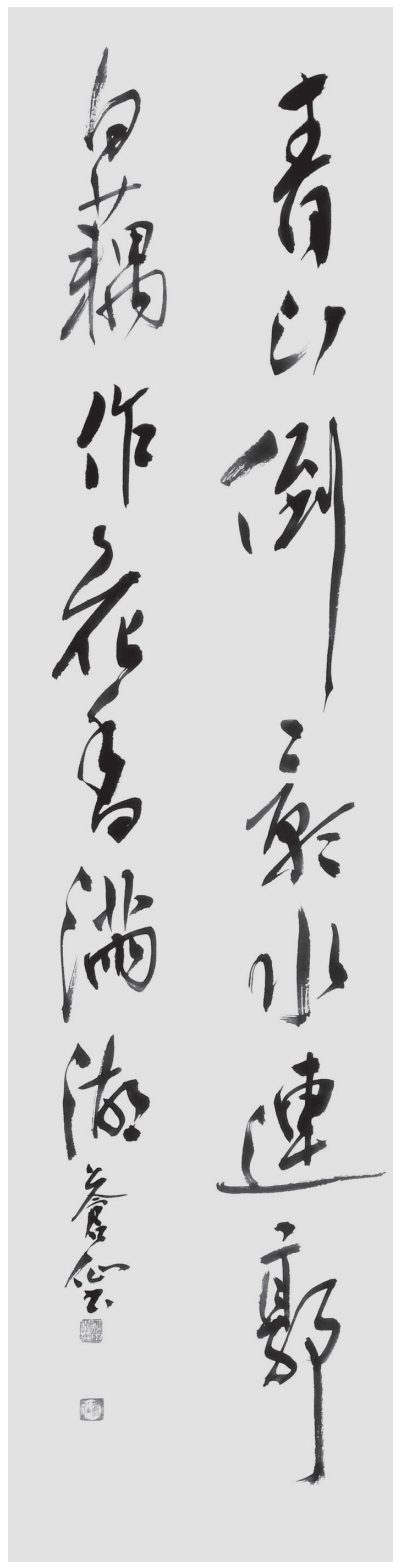
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

伊藤梅香書



締切り 七月二十四日(必着) 半切(一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

青山倒影水連郭

白藕作花香満湖

〔大意〕青々とした山は水面に連なって映り、美しい蓮の花が咲き湖一面に香りが充満する。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

初心の方から師範迄の方の手本となると、どのクラスに焦点をあてた手本にすればよいか迷います。ということは自分のレベルに合う創作をしてよいのです。上位の方は古典や図録の中のよいものと入れ替えてごらん下さい。案外楽しいものですよ。只、そのままスナリ調和して納まるものでもありません。それは上下、左右の字の形、潤濁によって変化調和しなければいけないからです。一人よがりにならないで批評と指導を頂くようにしましょう。自分の楽で得手な書法は個性ではなく、案外、癖、我流になる事もあります。進歩とは苦しい方向に歩むことかも知れません。

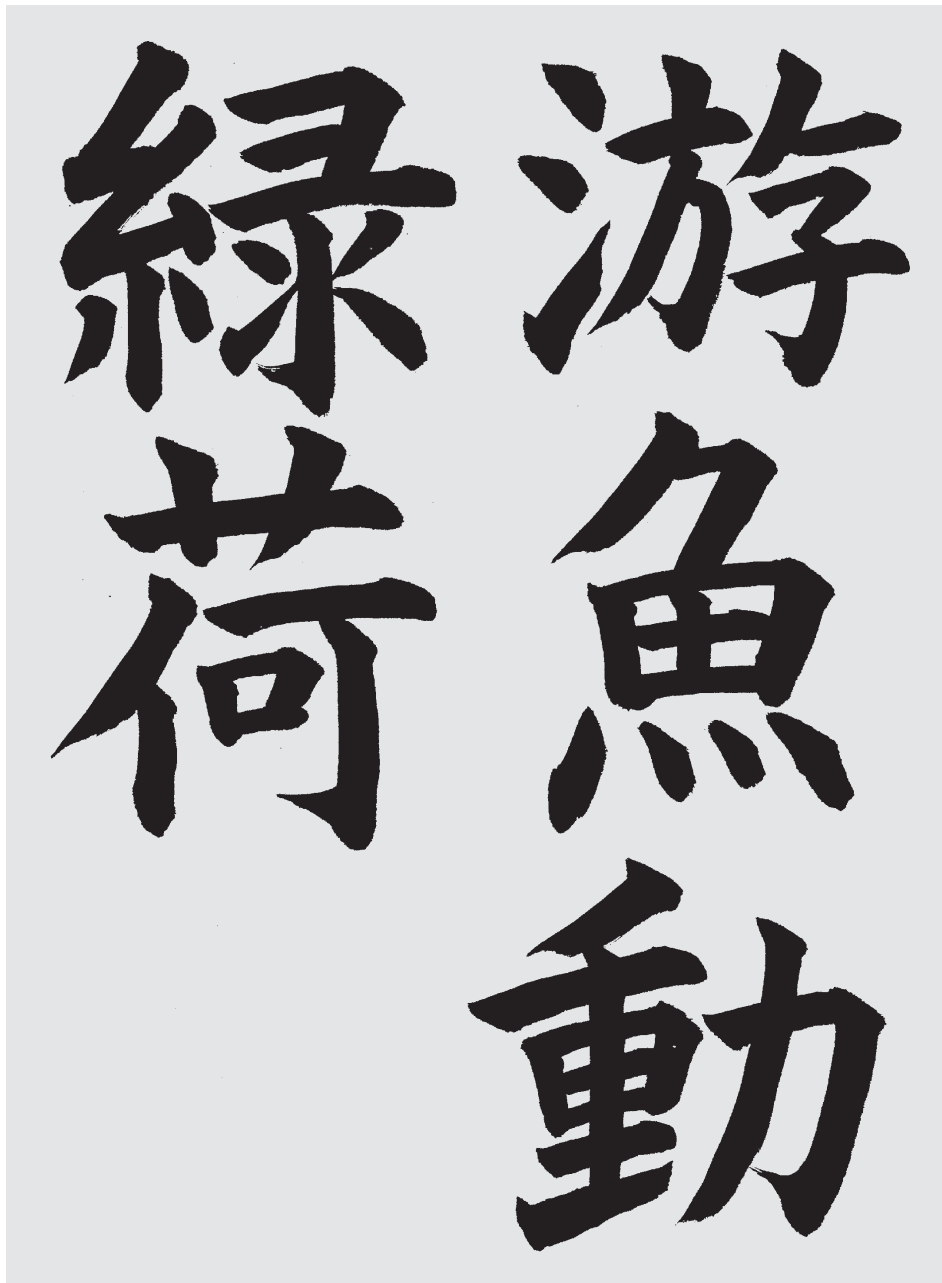
海開き山開きの時期を迎えて
いよいよ本格的な夏の到来です
夏休みには是非ご家族揃って
当地へ遊びにお出かけ下さい
(自分の氏名)
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(楷書)

清し
水
翠
芳書



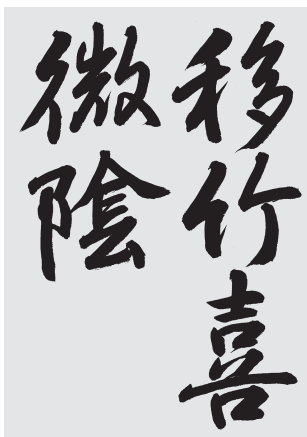
游魚動緑荷
ゆうぎょりよくかをうごかす

〔大意〕池水にたわむれる魚が緑色の蓮葉を動かす。

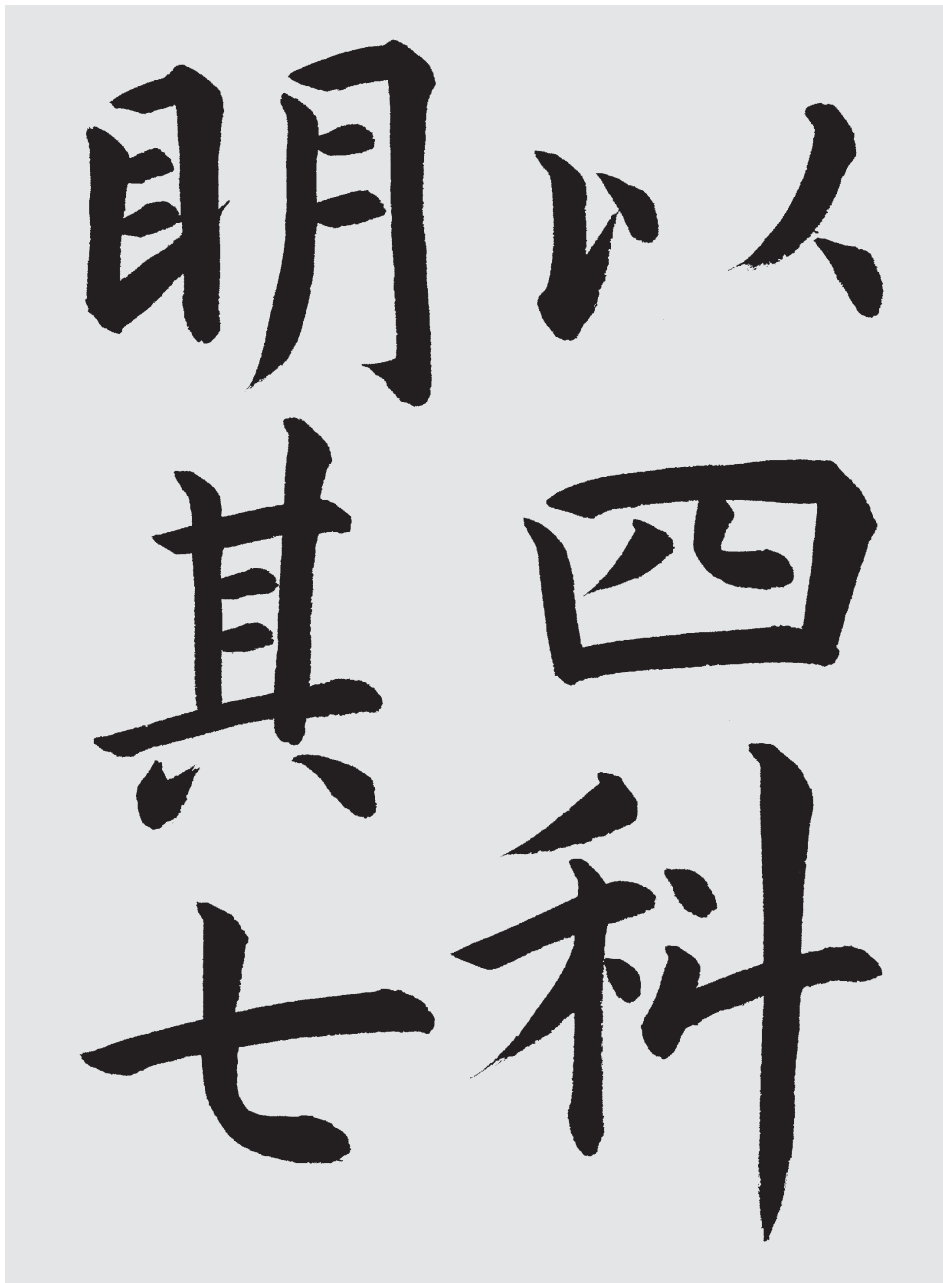
〔解説〕



◆8月課題予告(行書)

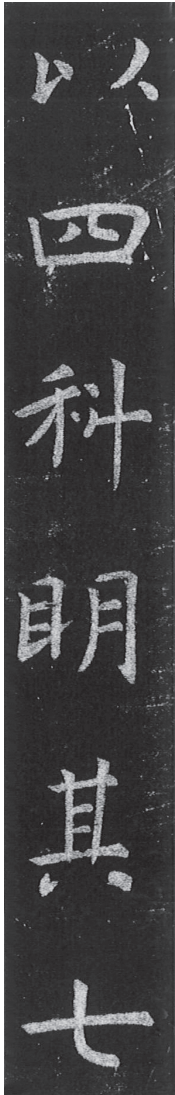


準初段から師範まで



須田 一葉 臨

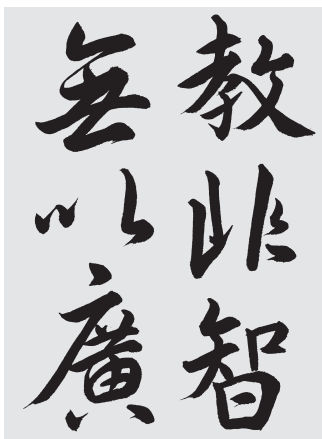
以
四
科
明
其
七



〔出典〕孔子廟堂碑(六二六、六三三)
 〔筆者〕虞世南(五五八、六三八)
 〔読み〕四科を以ってし、其の七
 (教に) 明らかなり。
 〔解説〕

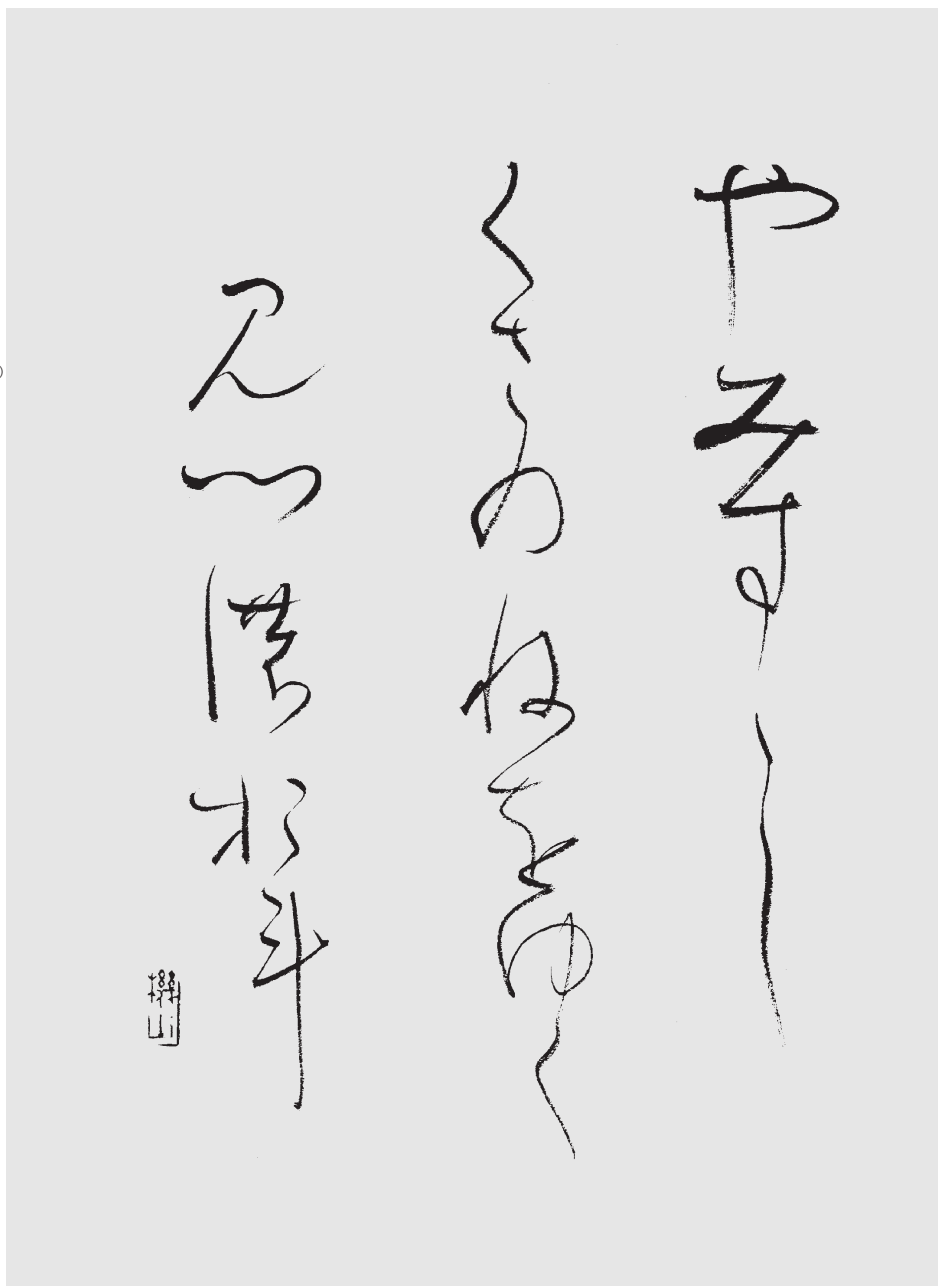


◆8月課題予告
 ※文献によって字体が異なる場合があります。



新入から1級まで

浅井機山先生書



闇やみ涼すし草くさの根ねをゆく水みづの音ね

見川見川(州)濃濃於於斗斗
石井露月石井露月

〔句意〕

闇の底からさらさらと草の中を流れる音が聞こえて来る。その音が涼味を感じさせる、というのである。夜の散策であろう。爽涼の感がある。

◆8月課題予告

谷底たにぞこの朴ほより山やまの粧よそふらし

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。
上5は、力強く書き出します。

中7は、墨継ぎせず、そのまま書きます。

下5は、墨継ぎし、「川濃」の所で太さを出して変体仮名を書いています。

全体の1字1字は、だいたいまっすぐ立っていますから、行が揺れて〈中心移行〉している〈行の揺らぎ〉をよく捉えるようにしてください。

それでは、1行1行見ていきましょう。

「やみす、し」

「や」、たっぷり含墨した筆で、横線の第1画は、まず突いて(蔵鋒で)ゆっくり書き出し、そして少し速めて、曲線に入ったらまたゆっくり回って、回り切ったら速く左へ行くなり空中に舞い上がります。空中から勢いよく下りて点を打ち、素早く縦線に入ってユックリそして速く垂直に下ろします。

「み」、その勢いで受けて横線を引き、角に突き当たって太くジックリ、回るところで遅く、回り切ったら速くパンッと止まります。次第に速く直線を引き、「すし」、「す」でくるりと回ったらさわやかに「し」まで巻き終えます。

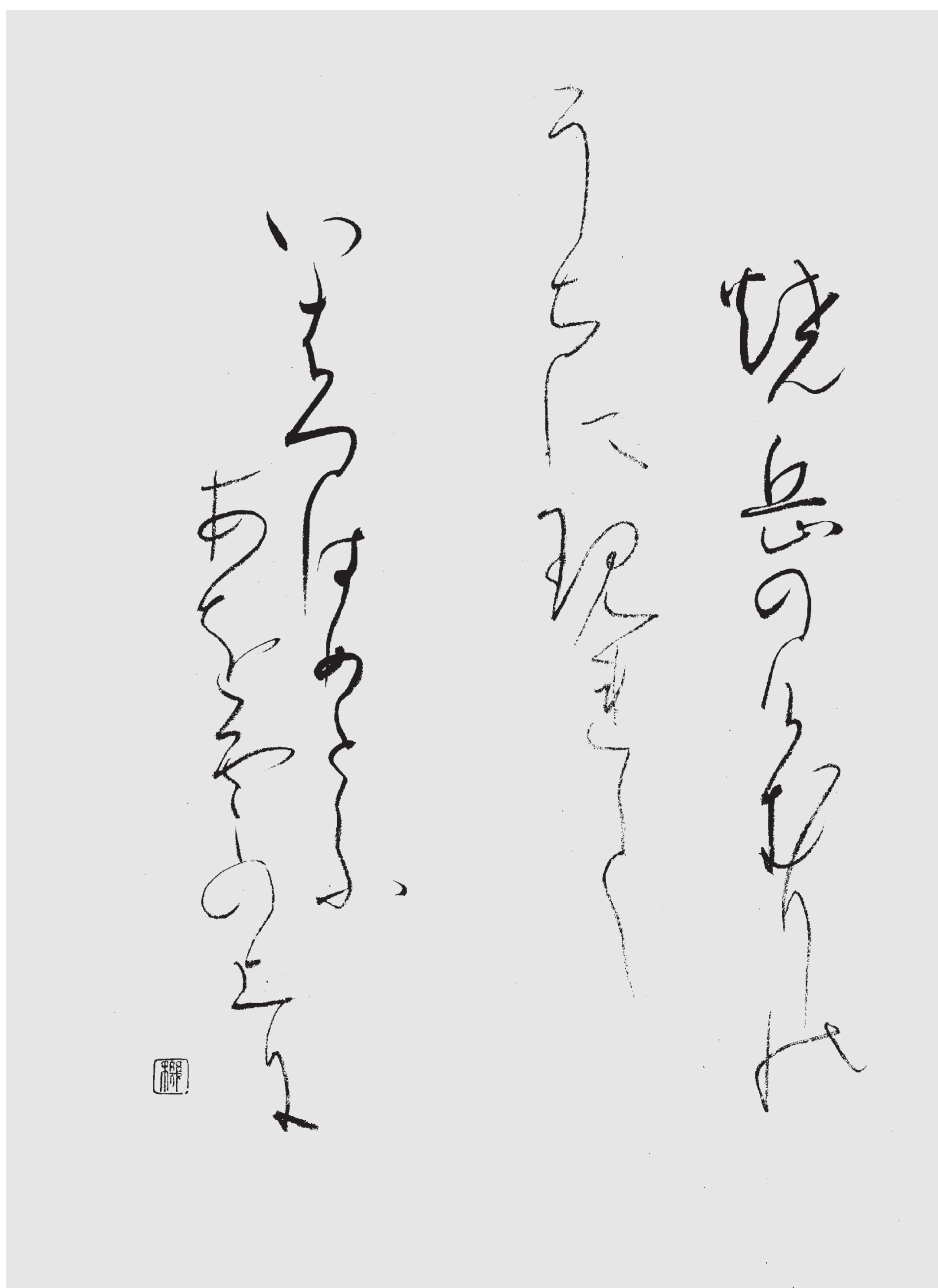
「くさのねをゆく」

「見川濃於斗」

この2行とも、各行の下の方に行って、中心移行(揺らぎ)しています。揺らぎは行が倒れることなく、ゆらりとしながら立っているのです。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



焼岳のけむりのうちに現れて

岩燕飛ぶ青雲の上に

窪田空穂

〔歌意〕

焼岳の噴き上げている煙の中から不意に現れて、岩燕が飛ぶよ、青々とした空を。

◆8月課題予告

思はぬに時雨の雨は降りたれど
天雲はれて月夜さやし

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

〈新料紙〉に書いています。

〈料紙〉は高価ですから、新料紙はそれを写して大量に印刷したもので、値段が安く料紙の1/50くらいです。

新料紙でも料紙の雰囲気はありますから、かな書の気分を味わえます。

従って、競書の出品には新料紙でいきましょう。展覧会の出品には料紙です。

さて1行1行見ていきましょう。

「焼岳の介むり能」

「焼岳」は、漢字で格好よく書き出しましょう。

「の介」「り」は、上の流れを受けて、「む」「能」は、横広に書いて変化を。

「うちに現連豆」

「うちに」は、かすれてきても気持ちはずっとたりして連筆します。

「現」は、偏でややゆっくり書いて墨を出し、ツクリは速度を速めていきます。「連豆」は、「豆」の途中でやや遅くして最後は一気に余白へ突進します。

「い者つはめとふ」

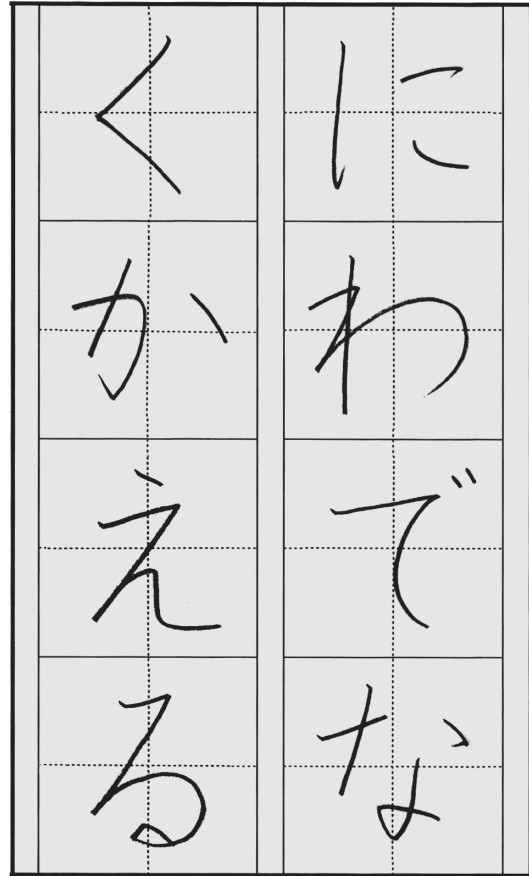
しっかり墨継ぎし、慎重に「い」を書き、

「あを雲の上尔」

「あ」は、右全体を見ながら位置を見極め、「を雲」と左右に揺らし、

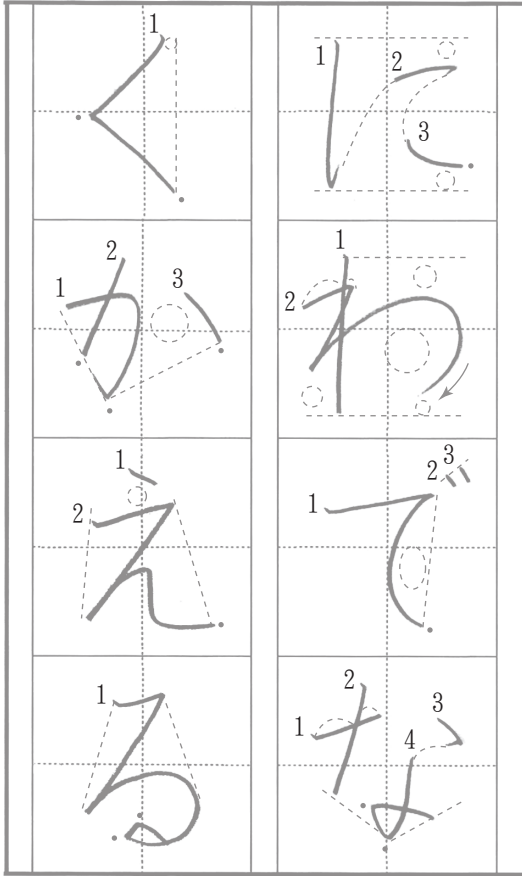
「の」は、軽やかに細く、「上」は、右の行も見ながら、「尔」は、全体を見て書き終わります。

よ
う
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)

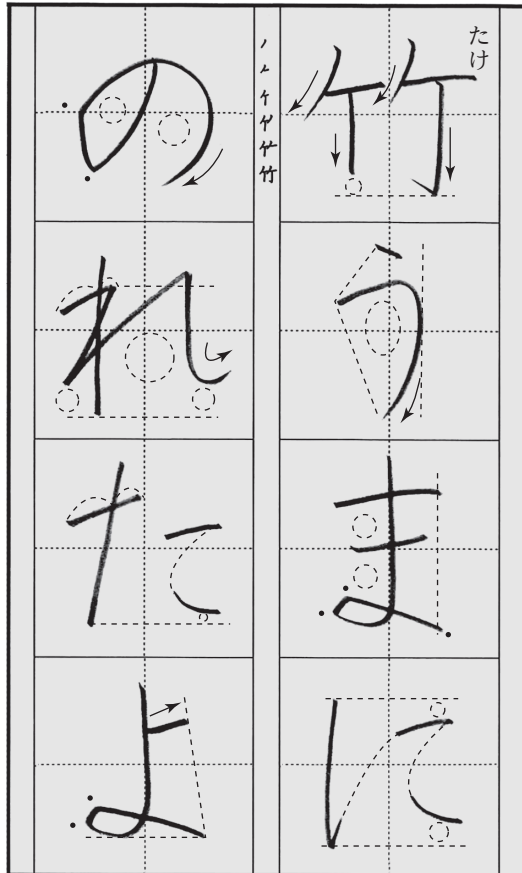
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準
初
段
以
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで
三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

さ	星	ほし
ま	の	
見	玉	オウ
る	子	ジ

戸目 戸 星 星
一丁 王 王
ッ子 子

新入〜1級

さ	で	え
ま	星	ん
を	の	げ
見	王	き
る	子	会

小二年
準初段以上

丸	川	かわ
太	に	
の	短	みじか
橋	い	

ノ丸 丸
一ナ 大 太
ま 知 短 短 短
オ 知 知 橋 橋

新入〜1級

の	た	小
橋	短	川
わ	い	に
た	丸	か
る	太	け

小三年
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

小四年

印	て	身
を	毎	長
付	年	を
け	柱	計
る	に	っ

準初段以上

て	身
柱	長
に	計
印	

新入1級

〈用具〉自由(黒色に限る)

小五年

組	熱	兄
む	心	は
性	に	何
格	取	事
だ	り	も

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

心	兄
取	何
組	事
性	熱

解説(よく見て習いましょう)

小四年以上
岡嶋桂川書

用具自由(黒色に限る)

シ	異
師	異
コウ	コク
高	国
ド	キョク
度	曲
ワビ	ゲイ
技	芸

解説(よく見て習いましょう)

に	の	異
感	高	国
激	度	曲
し	な	芸
た	技	師

小六年

(全員)

を	は	運
念	柔	動
入	軟	す
り	体	る
に	操	前

中二・三年

(行書)

回	を	ゴ
収	し	ミ
に	て	の
協	資	分
力	源	別

中一年

(行書)

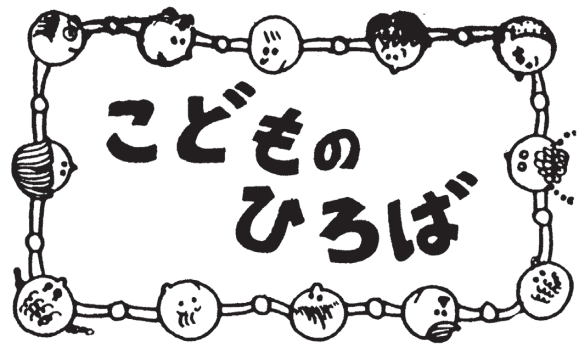
▼小三年以下の課題 まつ 松 うら 浦 しゅう 秋 きん 琴 書

あ	プ	か	待	今
り	ー	っ	ち	月
ま	ル	た	遠	は
す	開		し	
	き			
	が			

◎お手本はえんぴつ使用



- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



しめきり 7月24日（必着）

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 やす 保 だ 田 すい 翠 えん 苑 書

散	提	早	暑	日
歩	防	朝	い	中
す	浴	に	の	は
る	い	愛	で	
	を	犬		
		と		

◎お手本はつけペン使用



小二

王子

七
三

しに

幼年く小二年
酒さか井い智ち仔こ書

王に

子ま

小一

うま



小三〜小五年

水野碧友書

中
三

体柔
操軟

小六
中二・三年

玉樹
小華書

師曲
芸

小六

源

柔

軟

芸

師

資

中
二

回資
収源